



神戸市指定有形文化財
木造伎楽面・崑崙(社伝抜頭)
平安時代初期・9世紀 網敷天満宮蔵

本展観覧料でコレクション展示もご覧いただけます

須磨の天神さんとして知られる網敷天満宮に伝来した面です。額から眼にかけて刻まれた太い皺、大きく見開かれた眼、鼻翼の張った太く逞しい鼻、口角を上げて開いた大きな口…、全面が朱で彩色された姿は迫力満点。舞楽に用いられる「抜頭」面と伝わりますが、尖った耳などの特徴により伎楽面の「崑崙」の可能性が指摘されています。平安時代初期に制作されたとされる、この優品は平成30年(2018)度に神戸市有形指定文化財に指定されました。

表紙の反対側には「定飛脚問屋 江戸日本橋室町式目 京屋弥兵衛」と記されています。定飛脚問屋とは、江戸において主に上方向けの荷物輸送を担った民間の輸送会社であり、天明2年(1782)には、京屋弥兵衛を含む9軒が江戸定飛脚仲間(飛脚の同業者組合)として幕府から認められました。これ以降、定飛脚問屋は幕府に莫加金を支払う代わりに、問屋場での人馬調達における優先権を得ます。当時は、問屋場において人馬が不足しており、飛脚問屋でも馬がなかったために輸送が遅れることが頻繁に発生していました。こうしたなかで、人馬調達の優先権を得ることは、安定的な荷物輸送において非常に重要なことだったので、もっとも知名度が高かった飛脚業者といわれています。この知名度の高さの背景には、広域的な輸送のネットワークがあったことが指摘されています¹⁾、この広域ネットワークは本図からも読み取ることができます。

京屋弥兵衛の隣には、「○京都・大坂并二東海道筋 正月二日より飛脚立申候○西上州高崎・藤岡辺毎月五日十日十五日廿五日晦日(小の月ハ廿九日)○東上州相生・大間辺毎月四日十日十四日二十日廿四日晦日○奥州仙台并二道筋毎月朔日十一日廿一日と出申候」と、各所への定期便が出立する日が掲載されています。江戸から京都・大坂への便については、当時最も輸送量の多いルートですので掲載されるのも然りですが、注目すべきは西上州と東上州便です。上州とは上野国の略称で、現在の群馬県の範囲とほぼ一致します。上州便が多い背景には、京屋弥兵衛の出店が多数出店している地域ということがあげられます。上州は当時織物業が盛んであり、織物の輸送や取引に京屋は携わっていたのです。ちなみに、京屋は仙台にも出店を置いていました。

つまり、この地図は大手の飛脚業者である京屋弥兵衛が、仕事上知りえた街道情報を地図という形に仕立て、そこに定期便の日程を記すなど、ちゃっかりと広報媒体としての役割も担わせたものだったのです。これを配布された顧客は、地図を利用しつつ、荷物輸送の必要があれば表紙の裏面で日程を確認して、京屋弥兵衛に荷物の配送を依頼していたものと思われます。

1) 巻島隆(2015)『江戸の飛脚 人と馬による情報通信史』教育評論社 (鈴木 更紗)

として有名な松嶋は海に島が浮かぶ様子が表現されており、黒丸印で末の松山など近辺の名所が示されています(図2)。



図2 松嶋周辺

また、伊勢神宮は、内宮外宮に分けて記載されており、すぐそばの海上には二見ヶ浦の夫婦岩が描かれています(図3)。こうした名所の図像化は、Google Mapの観光名所アイコンに通ずる表現といえるのではないのでしょうか。

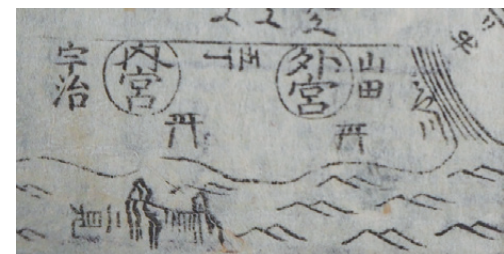


図3 伊勢神宮周辺

さて、前置きが長くなりましたが、問題はタイトルの横に刻まれた文言です。現代語にすると、「この道中記(旅行案内)は売り物ではありません。ご入用の際は取りにいらしてください。出来合いのものはございませんこと、あらかじめお断り申し上げます。以上。」となります。売り物ではない地図は、一体どういった目的で作製されたのでしょうか。それを解くヒントを探っていきたいと思います。

まずは、『年玉両面道中記』のタイトルです。「年玉」といえば、現代の私たちはぼち袋に入った現金が頭に浮かびますが、本来の語義では新年を祝う贈答品全般を指します。江戸時代には、餅をはじめとして扇や丸傘など様々なモノが年玉として贈答されました。本図もこうした年頭のあいさつとして配られたのでしょう。そして、核心ともいえるのがこの地図の作製者です。

売り物ではない地図 その正体は?

学芸員のノートから #115

今こそスマートフォンやパソコンで簡単に地図が見られるようになりましたが、一昔前までは多くの人が紙製の地図を購入していました。地図を購入して見るという行為は、江戸時代においても同じです。多くの本屋が競うようにして、様々な地図を出版しました。

「地図=買うもの」との思い込みのもと、館蔵の地図を見ていたところ、この考えを覆すような地図を発見しました。それが、江戸時代後期に作製された『年玉両面道中記』(図1)です。タイトルの右側には「○東海道。江の島。鎌倉。大田。あたみ箱根の湯治道。富士山道。秋葉風来寺。名古屋。大垣。伊勢。参宮して京へいづる」、左側には「○京より宇治。大坂。奈良。堺。高野山。大坂より西国へ長崎まで。木曾街道。善光寺。まはり奥州筋。八日光。まはり仙台。松嶋まで委する」と記されており、当時名所とされた場所への道のりを示す地図であることがわかります。

道線に沿って地図の内容を見てみると、表面の上段には江戸から日光及び松嶋・塩釜までの道のりが掲載されています。下段は、京都からはじまり、大坂を経由して長崎に至る道のりが描かれていることがわかります。後者はさらに、奈良を経由して伊勢神宮、堺を経由して高野山への道も記されています。裏面には、江戸と京都をつなぐ当時のメインルートである東海道と中山道が描かれており、途中で善光寺や伊勢神宮へ向かう道が分岐しています。

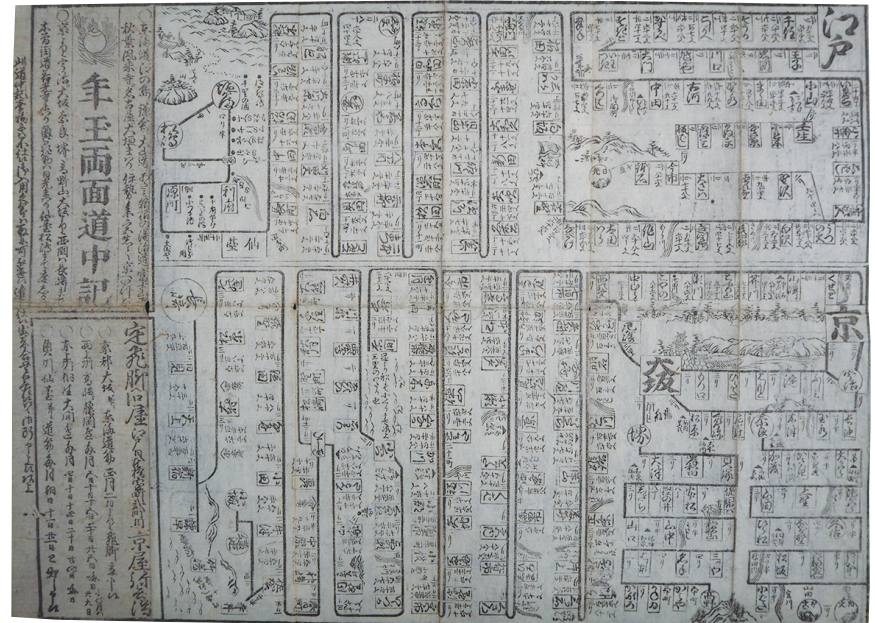


図1 『年玉両面道中記』(表面)

新収蔵品資料



FINE SIGHT OF THE KYOMACHI-STREET, KOBE.
元居留地京橋附近(神戸)
昭和時代初期

かつて外国人居留地であった地域の、京橋から北へと続くメインストリート、京町筋を写した絵葉書です。手前の大きな建物は、鈴木商店の社屋として使われていました。その隣に見える、正面に並ぶ柱が特徴的な建物が、横浜正金銀行神戸支店、現在の神戸市立博物館です。コレクション展示「国際港都神戸の印象—新規資料受贈記念展—」(4月1日(土)～5月7日(日))にて展示いたします。

上半期講座・イベント紹介

一般向け講座

- 浮世絵の摺師に挑戦!
- 博物館をたのしむ



浮世絵の摺師に挑戦!
(摺り体験の様子)



博物館をたのしむ
(実物資料の解説を聞中で)

子ども向け講座

- 浮世絵の摺師に挑戦!
- 夏休み土器づくり教室
- 博物館たんけん隊
- こうべ歴史たんけん隊
- ジュニアミュージアム講座



夏休み土器づくり教室の様子

◆詳細等は決まり次第、博物館HP・SNSで発信いたします。今後の状況により延期または中止になる場合がございます。

神戸市立博物館

〒650-0034 神戸市中央区京町24番地
TEL.078-391-0035 FAX.078-392-7054
https://www.kobecitymuseum.jp/

利用案内

開館時間:午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
※特別展開催時の金・土曜日は午後7時30分まで開館(入館は午後7時まで)
ただし、「ジブリパークとジブリ展」会期中の最終入館は、閉館の45分前まで

休館日:毎週月曜日(ただし、月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館)
※年末年始のほか、整備休館など臨時に休館及び閉館することがあります。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展覧会の延期・中止、ならびに関連事業の中止をさせていただく場合があります。詳細はホームページか、博物館までお問い合わせください。



神戸市立博物館は、昭和10年(1935)に建築された旧横浜正金銀行神戸支店を増改築し、昭和57年に開館しました。御影石の外装を施した古典主義様式の建物で、平成10年(1998)に国の登録有形文化財(建造物)になりました。



- #### アクセス
- JR「三ノ宮」・阪急・阪神「神戸三宮」、ポートライナー・地下鉄(西神・山手線)「三宮」から南西へ徒歩約10分
 - 新幹線「新神戸」から神戸市営地下鉄(西神・山手線)で「三宮」下車
 - 神戸空港からポートライナーで約18分、「三宮」下車
 - JR、阪神「元町」から南東へ徒歩約10分
 - 地下鉄(海岸線)「旧居留地・大丸前」から南東へ徒歩約8分

Twitter・Facebook @kobemuseum
Instagram kobemuseum

神戸市立博物館公式ホームページ▶

特別展 神戸の文化財Ⅲ

～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～
7月22日(土)～9月10日(日)

今こそ伝えたい、「私たち」の文化財

神戸市立博物館は昭和57年(1982)の開館以来、神戸の歴史や文化といった、私たちにとってかけがえのない、貴重な文化財を次世代に継承していくという使命を担っています。その使命のもと、昭和58年、平成19年(2007)に「神戸の文化財」展を開催してきました。本展は、その第3弾として、令和、そして後の時代へ伝えたい文化財を紹介します。

令和時代に入り、国内の文化財をめぐる状況は目まぐるしく変化しています。新型コロナウイルス感染症の流行によって行動が制限される一方で、人々が身近な地域の歴史や文化に関心を寄せる機会が増えました。また、博物館法の改正により、博物館資料のデジタル・アーカイブ化が謳われ、人々がより手軽に文化財を目にするようになりました。このような変化が訪れたことで、改めて文化財とは何かを問い直す段階にあるのかもしれない。本展では、神戸の文化財について、今一度「私たちにとって文化財とは」という視点から「宝」「街」「心」「技」という4つのキーワードをもとに取り上げ、今こそ伝えたい、その魅力に迫ります。

私たちの宝を守り伝える



重要文化財 南蛮屏風 狩野内膳筆 桃山時代(16世紀末～17世紀初期) 当館蔵(池長孟コレクション)

学校の教科書でおなじみの重要文化財「南蛮屏風」「泰西王侯騎馬図」は、神戸市立博物館が守り伝えてきた、私たちの街神戸の宝の1つです。そんな「私たちの宝」の数々を通じて、文化財とはどのようなものか、保護・継承のための活動についてご紹介します。

私たちの街の発展を伝える

身近な地域の歴史を知ることは、私たちのくらしのなかでも重要なことでしょう。神戸市内に遺された文化財には、「私たちの街の発展」の有様を示すものも少なくありません。J.W.ハートが作製した「神戸外国人居留地計画図」は、博物館が立地する旧外国人居留地の街の成り立ちを伝えます。

神戸市指定有形文化財
青銅鏡
（三角縁天王日月獣文帯三神一仏四獣鏡）
塩田北山東古墳出土
古墳時代前期(4世紀) 神戸市蔵

神戸市指定有形文化財
神戸外国人居留地計画図 J.W.ハート
明治5年(1872) 当館蔵

私たちの祖先の心を伝える

今の私たちの社会は、長い歴史のなかで祖先たちが思いや願いを紡いできたことにより成り立っていると言っても過言ではありません。過去の祖先たちと語り合うことはできませんが、彼らの心情を映す文化財の数々は、今日まで大切に継承されてきました。福祥寺(須磨寺)の宝物の一つ、「天台四祖図」からは神戸の仏教文化の奥深さが伺えます。

神戸市指定有形文化財 **天台四祖図**
暦応元年(1338) 福祥寺(須磨寺)蔵

私たちの技の歴史を伝える

いつの時代においても、人々のくらしは、先人が編み出し、継承されてきた技の数々が支えてきました。また、大規模な儀礼、時代の転換点といった重大な場面において結集された当時の最新技術を示す文化財は、今日を生きる私たちに感動を与えてくれます。「和田岬・湊川砲台(台場)関係資料」に見えるのは、幕末の激動の時代を生きた日本の職人たちの知恵と高度な技術です。

神戸市指定有形文化財
石堡塔外観及内構造絵図
「和田岬・湊川砲台(台場)関係資料」のうち
文久3年～慶応2年(1863-66)
当館蔵

特別展 ジブリパークとジブリ展

4月15日(土)～6月25日(日) ※入場日時予約制

令和4年(2022)11月1日、愛知県長久手市の「愛・地球博記念公園」内に、スタジオジブリの世界を表現した公園施設「ジブリパーク」が開園しました。ジブリパークは、アニメーションの世界を自分の足で歩き、秘密を発見する場所です。本展覧会は、ジブリパークの制作現場を指揮する宮崎吾朗監督がこれまでに手掛けた仕事と作品を振り返るとともに、ジブリパークをどのように考え、描き、つくっているのかを、初公開となる数々の制作資料とあわせてご紹介いたします。「ジブリの大倉庫」の「にせの館長室」の再現展示や「どんどこ森」にある「サクキとメイの家」の1/5スケール模型など、ジブリパークの世界を体験できる展示がいっぱいです。子どもから大人まで乗れる特別なネコバスも。ジブリパーク誕生の舞台裏をのぞける特別な展覧会を、ぜひお楽しみください。

展覧会スケジュール 2023.4 - 2023.9

2023年	4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 September
【休館日】	4/3・9～14・17・24	5/8・15・22・29	6/5・12・19・26～30	7/1～21・24・31	8/7・14・21・28	9/4・11～30

特別展 2・3階

4/15 sat 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

【特別展】ジブリパークとジブリ展 ■4月15日(土)～6月25日(日)

【特別展】神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～ ■7月22日(土)～9月10日(日)

1階

神戸の歴史展示

海や港を介して営まれた神戸の歴史と文化交流について、年代別に展示しています。

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

国際港都神戸の印象 新規資料受贈記念展

近代神戸の港と街に着目して航路案内、観光案内、絵葉書等のコレクション(令和4年度受贈)を初公開します。今後、国際港都神戸の歴史を物語る際に、不可欠な資料群といえます。

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈 実物展示

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

聖フランシスコ・ザビエル像 実物展示

7/22 sat 9/10 sun

■7月22日(土)～9月10日(日)

池長美術館recollection 美への想いがつなくもの

昭和の時代、稀代の蒐集家・池長孟が神戸に開設した池長美術館には、神戸の文化人をはじめ、多くの著名人が訪れ、池長のコレクションを楽しみました。彼らが来訪のしるしとして書き残した揮毫帖を中心に、在りし日の池長美術館を追想します。

7/22 sat 9/10 sun

■7月22日(土)～9月10日(日)

文化財を守るー古地図修復の現場からー

博物館の館蔵品には、そのままにしておくか劣化して元の姿を見ることができなくなるものも少なくありません。そのため、修理をして現在まで守り伝えてきました。本展示では、古地図資料の修理についてご紹介します。

7/22 sat 9/10 sun

■7月22日(土)～9月10日(日)

信仰と美を伝えるものー聖なる文化財ー

視えなくても存在する?!神や仏。特別な儀式を媒介してこの世に力を顕現させる不可視の存在。人智を超えた世界・存在の表象たる崇高美溢れる「文化財」をご紹介します。

7/22 sat 9/10 sun

■7月22日(土)～9月10日(日)

びいどろ・ぎやまんから指定品を

歴史資料を除いて、江戸時代のガラス工芸品ーびいどろ・ぎやまんに指定文化財はまだ存在しません。未来に伝えるべきびいどろの名品や手彫り薩摩切子などの貴重な作例に親しむ機会となれば幸いです。

7/22 sat 9/10 sun

■7月22日(土)～9月10日(日)

神戸の村と古文書Ⅱ

記録、証文、伝達などの目的で作成され、後世に伝わる絵図や文書。西須磨村(現神戸市須磨区)に関わる近世の絵図と古文書から、神戸に生きた人々の営為をたどります。

7/22 sat 9/10 sun

■7月22日(土)～9月10日(日)

特別展 2階

コレクション展示

2階

神戸の歴史展示

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

船・航路とガラス

明治時代以降、海外との交流が開かれるなかで、航路が整備されてきました。受贈記念展にあわせて、船の進路を示す船灯、船舶の就航記念品など、船や航路に関連する作品をご紹介します。

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

いにしへの瓦ー柳田義一コレクションの世界ー

大陸文化との交流の中で、飛鳥時代に伝来したとされる瓦には長い歴史があります。建造物の軒先を飾る瓦と呼ばれる部分には、ハスの花や唐草などの草花、巴など多彩な文様が描かれました。柳田義一氏が蒐集した古瓦の数々から、その魅力をご紹介します。

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

びいどろ・ぎやまんから指定品を

動物のかたちをしたガラス器、器を飾るデザインとしての動物たち…ガラス工芸品を彩るびいどろ・ぎやまんに注目です。

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

鈴木商店の軌跡

「天下三分の宣誓書」として知られる金子直吉書簡など、明治時代初期に神戸で創業した総合商社「鈴木商店」ゆかりの資料を展示します。

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

善福寺文書からみる秀吉と有馬

有馬の古刹、善福寺には中世にさかのぼる歴史資料が多く伝わります。本展示では、有馬をよよく愛した豊臣秀吉に注目してご紹介します。

4/1 sat 5/7 sun 5/9 Tue 6/25 sun 7/22 sat 9/10 sun

■4月1日(土)～5月7日(日) ■5月9日(火)～6月25日(日) ■7月22日(土)～9月10日(日) ■9月4日(土)～9月10日(日)

地域文化財展示

1階